

令和3(2021)年度栃木県農業大学校評価シート

目指す方向 魅力ある農大づくり ～農大の価値を高め、農大への人の流れを作ろう！～

重点目標	現状と課題	評価項目 評価指標	具体的方策		経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善方向	関係者評価委員会からのコメント
			取組項目(○)と内容(・)					
3 進路指導の強化	<p>(現状)</p> <p>○R2卒業生の雇用を含めた就農率(研修後就農を含む)は24.5%(R1卒業生 50.8%)、進路決定率は96.2%となったが、特に就農率の低下が顕著であった。</p> <p>○全入学者に占める非農家出身の学生の割合が、過半数を超える状況が続いている。</p> <p>○農業法人等からの求人も増加し、雇用就農を希望する学生も増加しているが、希望する部門と求人が必ずしもマッチしない。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症に伴う社会や経済への影響により、就職活動は停滞傾向にあり、学生の進路選択にも影響が懸念される。</p> <p>(課題)</p> <p>●大学校の設置目的を踏まえ、就農への誘導等にしっかりと取り組み、就農率の向上を図る必要がある。</p> <p>●非農家出身者でも就農や農業関係団体への就職に強い進学先としての評価を高めるため、進路決定率100%を達成していく必要がある。</p> <p>●R3年度の就職活動についても、引き続き、新型コロナウイルス感染症による社会・経済への影響が懸念されることから、農業法人や企業等と連携を密にし、学生に対するフォローを積極的に行う必要がある。</p>	<p>就農率 60%(41名)</p> <p>進路決定率 100%(68名)</p>	(1)進路希望の把握と的確な進路指導			<p>C (25名/41名 = 61.0%)</p> <p>B (59名/68名 = 86.8%)</p> <p>※評価基準 A: 90%以上 B: 70%以上 90%未満 C: 50%以上 70%未満 D: 50%未満</p>	<p>○個別面談の充実</p> <p>・早期の面談により、各学生の進路希望及び特性を把握・共有し、それぞれに応じた就農・就職活動の支援に役立てる。</p> <p>・進路希望を随時実施し適宜学生に応じた情報提供、助言等の支援を行う。</p> <p>・就農コーディネーターによる就農相談をより有効にするため、役割の明確化及び情報共有を図る。</p> <p>○就農希望者への支援の充実</p> <p>・引き続き、地元農業振興事務所と連携し、情報共有しながら進める。</p> <p>○編入希望者への支援</p> <p>・大学関係者との交流は、学生の意識向上に効果があるためより早い時期に実施する。(今年度は新型コロナウイルス感染症の状況により遅くなった)</p> <p>○資格取得の支援</p> <p>・引き続き、進路に応じた資格取得を支援する。</p>	<p>・就農希望者の支援効果を高めるため、学生・職員とも就農計画の基礎知識習得や就農準備スケジュールを理解し、就農コーディネーターと相談しながらの指導をお願いしたい。</p> <p>・農家や農業法人など現場での長期の就業体験等が重視され、これらの体験が課題の発見や経営ビジョン作成などとして卒業研究等に生かされるようなカリキュラム及び進路指導が望ましい。</p> <p>・就農率は回復しており、各種取り組みの効果が認められる。さらなる向上を目指して就農しない原因を分析し、対策を講じる必要がある。</p> <p>・農業の現場では担い手の確保が喫緊の課題であり、雇用就農の求人が増えている。就農率を高める取組が必要だ。</p> <p>・Uターン就農する例も多いと思うので、卒業5年後、10年後の動向調査を実施してはどうか。</p> <p>・希望者には企業(農業)経営の安定化や経営力の向上に取り組めるよう収入保険制度等セーフティネットなどについての知識向上を図って欲しい。</p>
			<p>○個別面談の充実</p> <p>・進路希望の把握と進路決定の早期意識付けを図るため、1年生及び2年生ともに年度の早い段階で指導担当職員を中心に個別面談を実施する。</p> <p>・各学科のリーダーや専攻職員など担当内職員が進路に係る指導ができるよう職員間の連携と情報共有を図り、学生ごとの進捗状況に応じた就職活動を支援する。</p> <p>・親元就農、雇用就農及び独立就農を希望する学生には、就農情報把握や就農コーディネーター指導など学生への情報提供を強化する。</p> <p>○就農希望者への支援の充実</p> <p>・就農後、円滑に経営や雇用就農を開始できるよう、本校学生の進路情報等と地元農業振興事務所の就農情報等を共有していく。</p> <p>○編入希望者への支援</p> <p>・編入希望学生の合格率を向上させるため、大学編入試験情報の随時提供や合格者等との意見交換会等を実施し、編入試験対策の支援を行う。</p> <p>○資格取得の支援</p> <p>・資格取得の意欲向上及び取得率向上を図るため、就農・就職に有利な資格取得情報の提供や資格取得講座の開催及び受講を勧めるなど資格取得の支援を図る。</p>		<p>○個別面談の充実</p> <p>・4月～5月 1年生及び2年生に対し、指導担当職員が個別に面談を実施し進路希望を把握</p> <p>・1年生及び2年生の進路希望調査結果(随時更新)を共有し、各学生に応じた就農・就職活動の助言及び支援を随時実施</p> <p>・親元就農、雇用就農及び独立就農を希望する学生の把握及び総合基礎講座Ⅱ等での学生への就農に関する情報提供</p> <p>・就農コーディネーターによる就農相談を就農希望の学生(26名、うち雇用就農15名)に対し個別に実施(12月～2月)</p> <p>○就農希望者への支援の充実</p> <p>・6/4 就農促進研修会の開催 希望調書を基に学生、農業振興事務所及び本校職員による3者面談を実施(農業生産学部及び農業経営学部1年生66名、農業振興事務所7事務所)</p> <p>・進路 即就農・研修後就農10名、雇用就農15名、農協関連9名、農業機械8名、種苗2名、栃木県技術員1名等</p> <p>・6/24 4年生大学編入希望者を対象にした説明会の開催(農業生産学部1年8名)</p> <p>・編入希望学生に対する個別指導(過去問、志望校編入学試験概要等の紹介)</p> <p>・1/26 酪農学園大学の職員及び卒業生による学校説明及び編入学に向けての心構え等意見交換会の実施(農業生産学部1年2名)</p> <p>○資格取得の支援</p> <p>・農業機械基本実習Ⅰ、Ⅱの開催(大型特殊67名、けん引65名)</p> <p>・資格取得教養講座(毒劇物取扱者、ワープロ検定、英会話等)の開設</p> <p>・希望者を対象とした資格取得研修の紹介と幹旋 フォークリフト(8/2～6, 27名) アーク溶接(8/18～20, 27名) ガス溶接研修(7/27～28, 19名)</p> <p>・家畜人工授精師養成講習会の開催</p>			
			(2)就農イメージの早期確立					

令和3(2021)年度栃木県農業大学校評価シート

目指す方向 魅力ある農大づくり ～農大の価値を高め、農大への人の流れを作ろう！～

重点目標	現状と課題	評価項目 評価指標	具体的方策		経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善方向	関係者評価委員会からのコメント
			取組項目(○)と内容(・)					
			<p>○農業法人等へのアプローチ</p> <p>・求人票提出のある農業法人等への校外学習実施による就農意欲の向上と法人へのアプローチを実施する。</p>	<p>・6/4 就農促進研修会で出身地の農業振興事務所職員との面談により、進路希望を明確にするとともに希望に即した先進的経営体実習先を選定(農業振興事務所の負担軽減のため、地域による学生数の偏りを調整して実施)</p> <p>・新型コロナウイルス感染症拡大のため実習は直前に校内実習に振替</p> <p>○農業法人等へのアプローチ</p> <p>・新型コロナウイルス感染症が拡大した時期を避け、1年生及び2年生を対象に農業生産法人等に校外学習を実施</p>		<p>・安全性が担保された上で、先進的経営体実習を実施する。</p> <p>○農業法人等へのアプローチ</p> <p>・コロナ禍の状況を見ながら、対象学生により効果のある場所で行う。</p>	<p>・引き続き、雇用就農を含めた就農イメージの具体化、農大生の雇用を希望する経営体とのマッチングを推進するよう取組をお願いしたい。</p> <p>・農業経営の将来ビジョンなどを考えさせる授業を行い、その中で先進技術をビジョンの中で実現していける実感が持てれば就農意欲が高まるのではないかと。</p> <p>・就農前に農業法人等に就職し、知識経験を高めてから自分の就農につなげる(農の雇用事業の独立支援タイプ)。</p>	
			<p>(3)就農等斡旋機能の強化</p> <p>○求人情報等の充実</p> <p>・学生の進路希望に応じた情報提供を実施するため、無料職業紹介事業を活用した求人情報や合同企業説明会等情報の常時閲覧とデータベース化を実施する。</p> <p>・農業振興事務所及び県農業法人協会等と連携を図り、農業法人情報の収集と学生への提供を実施する。</p> <p>・就職活動を実施した学生に対する「就職活動報告書」の作成指導及び既存報告書を活用した就農・就職指導を実施する。</p> <p>○雇用就農・就職支援</p> <p>・過去に求人があった企業・法人に対して、求人の確認や求人票の提出を依頼するほか、学生に対し情報の提供、校外学習の開催やインターンシップへの参加等を斡旋するなど雇用就農・就職支援の充実を図る。</p> <p>・就農を希望する学生が経済的に不安なく農大で学べるようにするため、農業次世代人材投資事業(準備型)の紹介と活用支援を実施する。</p> <p>・求人票を提出された企業・法人等との説明会を開催し、学生と法人とのマッチングを図る。</p> <p>・農大において、農業関連企業の説明会を開催し、就職等の斡旋の機会を設けるとともに、学生と企業とのマッチングを図る。</p> <p>・学生の要望により模擬面接を実施する。</p>	<p>○求人情報等の充実</p> <p>・当校宛てに提出された雇用就農、就職等に係る求人票をデータベース化するとともに学生がいつでも閲覧できるように進路指導室に求人票ファイルを常備</p> <p>・校内企業説明会の開催準備及び各種インターンの周知と斡旋</p> <p>・農振に対する求職情報の提供と農振経由の求人情報(雇用就農 1件)の学生への提供</p> <p>・就職活動(企業説明会や採用試験受検)後の学生に対する就職活動報告書の作成指導及び既存報告書を活用した就活対策の支援(随時)</p> <p>○雇用就農・就職支援</p> <p>・法人等に対する求人の確認、校外学習及び卒業生等からの求人及びインターンシップ情報を随時収集・提供</p> <p>求人企業数 118社</p> <p>・4/8 1年生に対し事業説明</p> <p>・農業経営学部で申請者3名(うち1名辞退)</p> <p>・11/12 求人票を提出している農業法人等(12社)を招き、雇用就農について理解を促進するための研修を実施(農業生産学部1年生58名)</p> <p>・4/15, 4/22, 5/6, 12/23 2年生を対象に説明会を開催</p> <p>5社に対し参加学生のべ73名</p> <p>・希望学生等に対し、各学科ごとに随時、模擬面接や小論文の添削を実施</p> <p>・特別な配慮を要する学生に対し、スクールカウンセラーとの情報交換や新卒応援ハローワーク等と連携による支援を実施</p>		<p>○求人情報等の充実</p> <p>・引き続き、求人情報等の常時閲覧とデータベース化実施する。</p> <p>・次の活動に役立つ報告書を作成させる。</p> <p>○雇用就農・就職支援</p> <p>・引き続き、雇用就農・就職支援の充実を図る。</p> <p>・引き続き、農業次世代人材投資事業(準備型)の紹介と活用支援を図る。</p> <p>・学生の進路希望等を勘案して農業法人及び農業関連企業を検討する。</p> <p>・引き続き、支援する。</p> <p>・特別な配慮を要する学生の早期把握と情報共有を図る。</p>	<p>・福祉部門で農業を指導する職員への進路もあるのではないかと。</p>	